

I 点検・評価にあたって

常滑市民病院は昭和34年5月に一般病床132床と結核病床56床を合わせた188床・8診療科の総合病院として開院し、現在では一般病床300床・19診療科で地域の中核的病院として地域医療を担っています。また、救急告示病院として救急医療を実施し、まさに市内の唯一の病院として市民にとってなくてはならない存在であります。しかし、市民の医療に対するニーズが多様化してきている一方、医療を取り巻く環境は大きく変化し、病院経営は大変厳しいものとなっています。

このように多くの公立病院が、損益収支をはじめとする経営状況の悪化や医師不足に伴う診療体制の縮小などに直面しています。こうした状況を踏まえ、国は公立病院が果たすべき使命を明確にし、持続可能な病院経営を目指した「公立病院改革ガイドライン」を示しました。常滑市民病院においても、これに基づき、平成21年3月に『常滑市民病院改革プラン』を策定し、改革に取り組んできています。

常滑市民病院改革プラン評価委員会は、第三者機関として改革プランを毎年度、点検・評価を行うため、平成22年8月に設置されました。今回は計画2年度の平成22年度の取り組みについて、現状分析に始まり、経営改善策に対する具体的な提言も含めて評価を行い、ここに報告します。短い時間ではありましたが、委員の皆さんの真摯な議論によって密度の濃い点検と評価ができたと思います。なお、今回の評価が今後具体的な成果として現れることを期待します。

最後に、大変厳しい経営状況ではありますが、さらに一層の経営改善を図り、常滑市民病院が引続き「市民の命と健康を守る地域医療の拠点病院」としての役割を果たしていただくよう強く望みます。

常滑市民病院改革プラン評価委員会
委員長 杉江省一郎

Ⅱ 評価総括

改革プラン2年目としては、入院患者数の増加、各種加算の取得、診療材料費の削減、未収金対策など積極的に経営改善に取り組み、黒字化を達成したことは評価できる。しかし、一般会計から年間11億円余りの繰り入れをしていることも事実なので、できるだけ繰り入れを少なくして黒字化を達成することが望ましい。引き続き、職員一人ひとりが経営者の意識を持って、他にない特色を生かして経営改善に努め、新病院建設が実現できるように努められたい。

1. 経営の効率化

- ① 呼吸器内科、整形外科の常勤医不在の中で、入院患者数が増加したことは評価できるが、病床利用率はまだまだ低い状況にある。医師確保に向けてより一層の努力を求める。
- ② 各種加算の取得については、相当の評価ができる。7：1看護体制を維持しながら、更なる加算取得に努められたい。
- ③ DPCについては、診療方針の統一などが可能となりメリットはあるが、病床利用率が低い現状では、入院患者数の減少が予想されるなど不確定要素が多いので、導入については慎重に検討することが必要である。
- ④ 亜急性期病床については、地域の要望が強いので、今後も引き続き活用すべきである。
- ⑤ 未収金については、新規の未収発生を極力抑えるよう病棟、事務方の素早い連携を取るとともに、場合によっては法的措置も講じる必要がある。
- ⑥ 材料費削減の取り組みは評価できるが、まだ道半ばである。業者との交渉の中でさらなる削減に努められたい。
- ⑦ 人件費削減について、必要人員を確保し、収益を上げることは重要であるが、厳しい財政難の折、やはり身を削る努力は必要であり評価できる。

2. 経営形態の見直し

- ① 病院経営を取り巻く状況は変化が早く、経営判断も迅速性が要求される。そのためには、どのような経営形態が適しているかの検討は必要である。新病院建設を見越した上で、他の成功事例を参考に研究を進めるべきである。

3. 再編・ネットワーク化

- ① 半田病院を始めとして他の病院との連携は、お互いに欠けている分野を補い地域医療を守ることに資するので、今後も進めるべきである。併せて、新病院建設を踏まえて、常滑市民病院の知多半島における位置づけ、あり方等についても検討されたい。